平成２９年度　事業報告書

Ⅰ　法人運営の状況

１　理事会の開催

（１）平成２９年度第１回理事会

開催日　　平成２９年５月２６日

開催場所　　別府発達医療センター　会議室

審議事項　　・平成２８年度事業報告について

・平成２８年度決算について

（監事の監査報告）

・諸規程の一部改正等（案）について

・評議員候補者の推薦（案）について

・次期役員候補者の推薦（案）について

・業務執行理事の業務範囲（案）について

（２）平成２９年度第２回理事会

開催日　　平成２９年６月２３日

開催場所　　別府発達医療センター　会議室

審議事項　　・理事長等の選定について

・中期資金計画（案）について

（３）平成２９年度第３回理事会

開催日　　平成２９年７月２８日

開催場所　　別府発達医療センター　会議室

審議事項　　・諸規程の一部改正（案）について

（４）平成２９年度第４回理事会

開催日　　平成２９年９月８日

開催場所　　別府発達医療センター　会議室

審議事項　　・施設内保育所の設置について

（５）平成２９年度第５回理事会

開催日　　平成２９年９月１３日

開催場所　　決議の省略

審議事項　　・施設内保育所建設工事に係る入札指名業者の選定について

・施設内保育所建設工事に係る落札業者との工事請負契約締結の理事長への委任について

（６）平成２９年度第６回理事会

開催日　　平成２９年１０月３０日

開催場所　　別府発達医療センター　会議室

審議事項　　・諸規程の一部改正（案）について

（７）平成２９年度第７回理事会

開催日　　平成３０年１月２６日

開催場所　　別府発達医療センター　会議室

審議事項　　・諸規程の一部改正（案）について

（８）平成２９年度第８回理事会

開催日　　平成３０年２月１４日

開催場所　　決議の省略

審議事項　　・施設長の任命について

（９）平成２９年度第９回理事会

開催日　　平成３０年３月１６日

開催場所　　別府発達医療センター　会議室

審議事項　　・平成２９年度第１回補正予算（案）について

・平成３０年度事業計画（案）について

・平成３０年度当初予算（案）について

・諸規程の一部改正（案）について

（１０）平成２９年度第１０回理事会

開催日　　平成３０年３月３０日

開催場所　　決議の省略

審議事項　　・施設内保育所業務請負契約の締結について

・基幹相談支援センター事業等の業務委託契約の締結について

２　評議員会の開催

（１）平成２９年度定時評議員会

開催日　　平成２９年６月２３日

開催場所　　別府発達医療センター　会議室

審議事項　　・平成２８年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認について

・役員報酬規則の一部改正（案）について

・次期役員の選任について

３　監事の監査

（１）決算監査

年月日　　平成２９年５月２３日

場所　　別府発達医療センター　会議室

内容　　平成２８年度業務の執行状況及び財産の状況

（２）中間監査

年月日　　平成２９年１１月１４日

場所　　別府発達医療センター　会議室

内容　　平成２９年度上半期の業務の執行状況及び財産の状況

４　役員の選任等

（１）社会福祉法改正に伴い、次の通り委嘱した。

氏　　名	委嘱年月日	備　　考
小　野　重　遠	平成 29 年 4 月 1 日	新任　理事 大分療育センター所長 （任期：平成 29 年 6 月 23 日）
江　藤　敏　博	平成 29 年 4 月 1 日	新任　理事 別府発達医療センター事務局長 （任期：平成 29 年 6 月 23 日）
緒　方　幸　子	平成 29 年 4 月 1 日	新任　理事 児童発達支援センターひばり園園長 （任期：平成 29 年 6 月 23 日）
首　藤　辰　也	平成 29 年 4 月 1 日	新任　理事 地域支援センターほっと所長 （任期：平成 29 年 6 月 23 日）

（２）社会福祉法改正による任期満了に伴う改選が行われ、次の通り委嘱した。

氏　　名	委嘱年月日	備　　考
阿　部　　實	平成 29 年 6 月 23 日	新任　理事長 前 別府発達医療センター常務理事 （任期：平成 31 年度定時評議員会）
福　永　　拙	平成 29 年 6 月 23 日	新任　副理事長 別府発達医療センター長 （任期：平成 31 年度定時評議員会）
江　藤　敏　博	平成 29 年 6 月 23 日	新任　常務理事 別府発達医療センター事務局長 （任期：平成 31 年度定時評議員会）

氏　　名	委嘱年月日	備　　考
小　野　重　遠	平成29年6月23日	再任　理事 大分療育センター所長 （任期：平成31年度定時評議員会）
緒　方　幸　子	平成29年6月23日	再任　理事 児童発達支援センターひばり園園長 （任期：平成31年度定時評議員会）
首　藤　辰　也	平成29年6月23日	再任　理事 地域支援センターほっと所長 （任期：平成31年度定時評議員会）
村　上　　功	平成29年6月23日	再任　監事 元 大分県福祉保健部保護監査指導室長 （任期：平成31年度定時評議員会）
堤　　喜代司	平成29年6月23日	再任　監事 元 大分県立病院事務局長 （任期：平成31年度定時評議員会）

5　評議員の選任等

（1）社会福祉法改正による任期満了に伴う改選が行われ、次の通り委嘱した。

氏　　名	委嘱年月日	備　　考
神　本　紀　武	平成29年4月1日	再任 元 大分県社会福祉介護研修センター長 （任期：平成33年度定時評議員会）
佐　藤　賢之助	平成29年4月1日	再任 元 別府大学短期大学部教授 （任期：平成33年度定時評議員会）
田　北　光　洋	平成29年4月1日	再任 前 地域支援センターほっと センター長 （任期：平成33年度定時評議員会）
津　村　　弘	平成29年4月1日	再任 国立大学法人大分大学 総括理事 （任期：平成33年度定時評議員会）

氏　　名	委嘱年月日	備　　考
舛　田　敏　行	平成29年4月1日	再任 社会福祉法人若葉会 理事長 （任期：平成33年度定時評議員会）
松　永　　忠	平成29年4月1日	新任 社会福祉法人別府光の園 統括施設長 （任期：平成33年度定時評議員会）
阿　部　俊　作	平成29年4月1日	再任 大分市社会福祉協議会 常務理事 （任期：平成33年度定時評議員会）
中　尾　　薫	平成29年4月1日	再任 別府市社会福祉協議会 常務理事 （任期：平成33年度定時評議員会）

（２）異動に伴い、次の方が退任された。

氏　　名	退任年月日	備　　考
阿　部　俊　作	平成29年4月1日	大分市社会福祉協議会 常務理事 （任期：平成33年度定時評議員会）
中　尾　　薫	平成29年6月27日	別府市社会福祉協議会 常務理事 （任期：平成33年度定時評議員会）

（３）異動に伴い、次のとおり委嘱した。

氏　　名	委嘱年月日	備　　考
今　村　博　彰	平成29年6月9日	大分市社会福祉協議会 常務理事 （任期：平成33年度定時評議員会）
釜　堀　秀　樹	平成29年6月27日	別府市社会福祉協議会 常務理事 （任期：平成33年度定時評議員会）

６　運営協議会の設置

改正社会福祉法の施行によって、評議員会が議決機関として位置付けられたことに伴い、従前の評議員会が担っていた諮問機関としての機能の一部を代替する仕組みとして、今年度から、新たに運営協議会を設置した。

地域の代表者や利用者又は利用者の家族の代表者等が参加し、意見を聴く場として位置付け、地域や利用者の意見を法人運営に反映させることを目的に年２回開催し、委員から、施設への入所を希望する待機者の状況、職員の採用・確保、防犯対策への取り組み、災害時等の緊急連絡方法、支援学校との連携の強化、施設内保育所の開設等について、多岐にわたり貴重なご意見、ご要望をいただき、今後の法人・施設運営の参考となった。

運営協議会 委員名簿

氏　　名	職　業　等
委員長　　松宮　健太郎	別府市鶴見町自治会 会長
委　員　　立川　敬子	別府発達医療ｾﾝﾀｰﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会 代表
委　員　　田原　邦昭	大分銀行鶴見支店 支店長
委　員　　河野　清門	大分県立別府支援学校鶴見校 副校長
委　員　　飯田　孝喜	利用者家族代表
委　員　　中島　なぎさ	利用者家族代表

(1) 第１回運営委員会

開 催 日　　平成２９年　７月１４日（金）

審議事項　　①平成 28 年度事業報告

②年間行事報告

(2) 第２回運営委員会

開 催 日　　平成３０年　１月１２日（金）

審議事項　　①平成 29 年度各施設・事業の経営報告

②平成 30 年度事業計画（案）

③平成 30 年度年間行事予定（案）

Ⅱ　法人事業の概要

平成２９年４月に改正社会福祉法が全面施行され、当法人も、評議員会、理事会の新たな機能分担を念頭に、運営が円滑に行われるよう組織整備等に取り組んだ。また、新たに運営協議会を設置して、利用者や地域の代表者にご意見をいただき、法人の運営に反映するよう努めた。

平成３０年度の診療報酬と介護報酬の同時改定については、関係団体等を通じて情報把握に努めた結果、危惧されたマイナスの影響はなく、概ねプラス改定となった。また、めじろ園の療養病床から一般病床への切り替えについては、これらの改定に先行して進め、変更後の２月、３月については対前年比で増収となった。

大分療育センターの大規模改修は、諸般の事情で次年度に繰り越すこととした。平成３１年度を想定していた「地域支援センターほっと」の全面改築についても、近隣支援学校の再編を念頭に置いて、次期中期計画作成の中で検討を深めていくこととした。

医療体制の面では、大分大学医学部の関連する医局との連携をさらに強固なものとするよう取り組んだ。常勤内科医についても、平成３１年度の確保を見込める状況となった。

開設６０周年の節目に実施した記念式典には、大分県知事、別府市長、大分大学医学部総括理事・同学部整形外科学教授(前附属病院長)、全国肢体不自由児施設運営協議会会長をはじめとして、友好施設、近隣の医療機関・施設、地域の代表等にもご出席いただいた。また、記念セミナーは一般に公開して、利用者と地域住民、職員が共に学べる内容として実施した。

以下、その実績を報告するとともに、各施設の事業についても概要を取りまとめて報告する。

１　職員の人権意識の醸成

全職員を対象として、社会福祉法人みずほ厚生センター聖心園施設長　高橋　智秀氏を迎え、「障害者の人権について～その人らしく生きるために私たちができること～」と題した虐待防止、人権擁護に関する研修を実施するとともに、平成２８年度に策定した「倫理綱領」「行動規範」の徹底を図って、利用者第一のサービスの提供に努めた。

県の指導監査において、別府整肢園における身体拘束のあり方等について文書指導を受けたことから、早急に改善策を立案・実施するとともに、その共有に継続的に取り組むこととした。

２　利用者に対するサービスの向上

センターにおける医療終了児・者を次の支援機関に繋げるために、地域療育連携

室及び病棟等の担当者を中心として、関係機関との連絡調整に努めるともに、就労する利用者の自立に向けた取り組みにも関わった。

診療部に臨床工学技士を採用し、医療機器の管理を充実させるとともに、医師、看護師等の負担軽減を図り本来業務に注力できる体制づくりに努めた。

３　人材の確保及び職員の資質の向上

大学及び人的ネットワーク等を通じて内科医等の確保に取り組み、平成３１年度の採用に道筋をつけることができた。また、新たな人材確保に向けて、施設内保育所を開設する等の勤務環境の改善に取り組んだ。

看護師の採用状況には好転の兆しが見られた。養成校が定員割れをしている介護福祉士については採用困難な状況が続いた。また、看護師等で相当数の離職者があったことから、第二正規職員制度の整備などに積極的に取り組んだ。

４　安全対策の徹底

インシデント報告の提出を促し事故の未然防止に努めるとともに、再発防止策等について職員間の情報共有を図った。また、医療等安全管理委員会及び衛生委員会によるラウンドにより、事故等が起こる恐れのある環境等を発見し、早期に対応した。以上の取り組みの結果、重大事故の発生はなかった。

５　法人運営におけるガバナンスの徹底と地域貢献の推進

評議員会と理事会がそれぞれ役割を分担し、新たな形で、法人の健全な発展に繋がるよう努めた。

平成２８年度から取り組んでいる地域における公益的な取り組み「つるみほっこり村」の受け入れ児童が昨年度の２名から１０名と増加し、知名度も徐々に向上している。

６　中期計画等の確実な進行管理

中期計画に連動した収支計画を適時見直して理事会等で報告し、健全な法人運営に努めている

７　法人創設６０周年記念行事に向けた取り組み

法人創設６０周年の記念事業として、平成２９年１１月２３日に別府ビーコンプラザを会場として記念式典及び一般公開形式で記念セミナーを開催し、式典に１５７名、セミナーに１５９名の参加があった。

式典においてはこれまで当センターの発展に尽力していただいた方々への感謝状をお贈りした。

Ⅲ　サービスの質の向上

１　サービス向上委員会

実施期間　　平成２９年８月１０日～８月３１日
対象者数　　全職員（休職者等を除く）　２６１人
回答者数　　２５３人（回答率　９６．９％）

サービス向上委員会では、昨年度実施した利用者満足度調査に代わり、今年度は第４回目となる職員意識調査を実施した。（隔年実施）

今回の調査では、記入者を特定できないよう雇用形態、年齢、勤続年数、役職を記載しないことにし、回答率 100%を目指したが、結果は 96.9%であったものの、前回調査の平成 27 年度よりもセンター全体では 4.7 ポイント上昇した。事業所別にみると、別府センターでは回答率が前回よりも 0.3 ポイント低下し、大分センターは目標である 100%を達成することができた。

（１）全体の集計結果

調査項目については、前回調査と同一（表記の変更あり）とし、接遇等に関する質問項目が 11 項目、組織・事業等の取り組みに関する項目が５項目、合計 16 項目について調査を行った。

今回は、回答しやすいように質問形式を「できていますか」から「していますか」に変更し、評価も「している」に変更した。

(1)「笑顔で挨拶」(2)「丁寧な言葉遣い・対応」等、接遇に関する項目はいずれも上昇し、職員の接遇への意識の高さと取り組みの成果が窺えた。とりわけ(3)「苦情や問い合わせに対する対応」は、前回より 16 ポイント、(4)「電話への対応」は前回より 13 ポイントと大きく上昇した。

その反面、組織・事業等の取り組みに関する項目では、(12)「福祉サービス第三者評価事業」は、過去に別府整肢園とめじろ園が受審しているが、それ以降に入職した職員には初めて聞く言葉であったのか「a.知っている」は 10.7 ポイント低下した。また、(14)「法人の理念、倫理綱領等」(15)「中期計画」及び(16)「事業計画」の「a.知っている」も低下したが、特に(14)「法人の理念、倫理綱領等」については、平成 28 年 10 月に新しくなったこともあり、前回より 22.7 ポイントと大きく低下した。

※各施設、各部署毎の集計結果については、別紙資料のとおり。

（２）まとめ

全体的には、接遇項目は前回よりも上昇し、法人の組織・事業に関する項目は低下した。

(1)「笑顔で挨拶」、(2)「丁寧な言葉遣い・対応」、(5)「身だしなみ」、(11)「プライバ

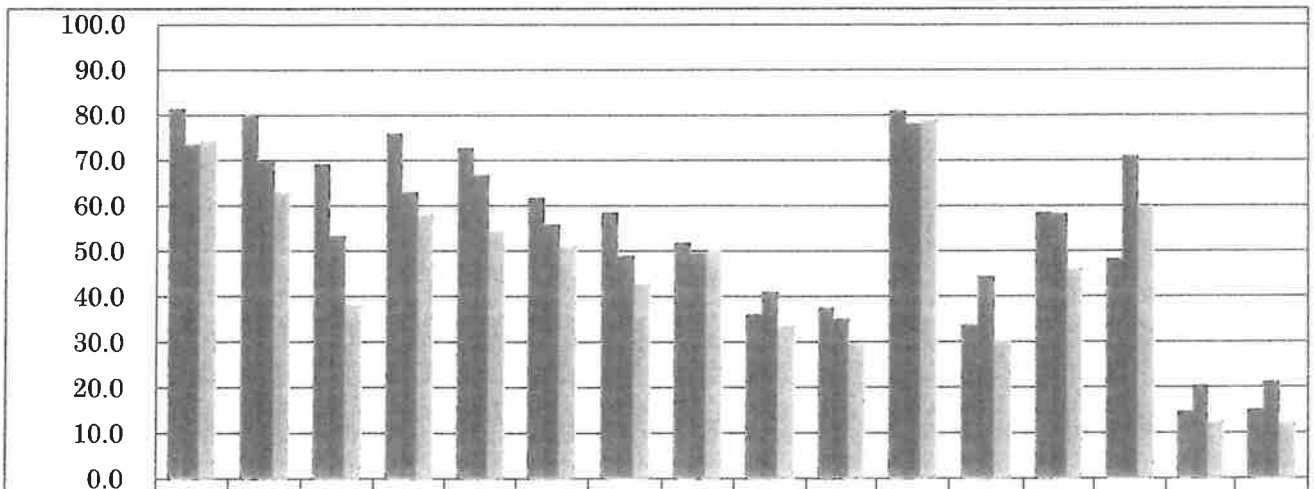
シー保護」等については、既に大部分の職員にとって意識として定着しているようであるが、「挨拶がない」、「笑顔がない」、「声かけがない」といった声が、利用者や保護者からの苦情として毎年上がっているため、今年度は部署ごとに定める重点目標を「笑顔で挨拶」と定めた（大分センター除く。）。部署ごとに取り組み方法等を検討し、継続的に取り組みを維持するため中間評価を行い、サービスの向上につながるよう取り組んだ。

また、前回「a.できている」の割合が50%を下回っていた（7）「職員間の情報共有」の項目については、各部署の取り組みや職員の意識の向上からか今回、58.5%と改善し同様に(8)「研修参加」も51.8%と半数をクリアしている。

さらに、（15）「中期計画」や(16)「事業計画」について調査するにあたっては、全職員に対して内容を公表、周知するだけではなく、会議や研修等を通じて意識の向上を図る方法も検討する必要がある。また、(14)「理念・倫理綱領等」については、読み合わせを行っている部署もあるが、単に暗記するのではなく、日頃から自らの利用者への接し方、業務に向かう姿勢を行動規範で振り返るなどし、意識の中に定着させるなどの機会を設けていくことも必要である。

サービス向上委員会としては、調査結果に基づき、委員が中心となり所属部署毎に改善策等の検討を行い、サービス意識の維持、向上に努めるとともに、法人全体で取り組むべき課題についても検討し、来年度以降、具体的な対策等について提案したい。

職員意識調査（両センター合計）「a　している・知っている」の割合



割合(%)	笑顔で挨拶	丁寧な言葉遣い	苦情等対応	電話対応	身だしなみ	環境整備	情報共有	安全研修参加	専門研修参加	会議での意見	プライバシー保護	第三者評価	利用者満足度調査	理念・倫理綱領	中期計画	事業計画
29年度	81.4	79.8	69.2	75.9	72.7	61.7	58.5	51.8	36.0	37.5	81.0	33.6	58.5	48.2	14.6	15.0
27年度	73.4	69.6	53.2	62.9	66.7	55.7	48.9	49.4	40.9	35.0	78.1	44.3	58.2	70.9	20.3	21.1
25年度	74.2	63.1	38.2	58.0	54.5	51.1	42.9	50.2	33.5	29.6	79.0	30.0	46.0	59.7	12.4	12.0

２　苦情解決委員会

苦情解決委員会は、例年どおり年３回定期的に開催し、利用者から寄せられた苦情・要望等の内容及び改善策等の報告を行うとともに、委員から業務改善や再発防止のための有益な助言、提案等をいただいた。

委員の任期満了に伴い、第三者委員として藤内和子氏（元大分県立聾学校校長）、利用者・家族代表委員として、佐藤俊一氏（めじろ園）、立川美佐子氏（別府整肢園）の３名が新たに選任され、その他の委員は再任となった。

ご意見箱等に投函された苦情・要望の申出件数は、苦情が１６件、要望が１件、その他のご意見が３件と、昨年度（苦情１０件、要望０件　計１０件）と比べて件数は増加した。

苦情の内容については、職員の接遇・サービスに関するものが９件、設備・環境に関するものが７件であった。

職員の接遇・サービスに関するものでは、「会計時の精算ミス」「リハの開始時間に遅れて来る」「受付・診察の順番が前後した（説明不足が原因）」「言葉遣いが悪い」「対応時に笑顔や声かけがない」などで、一部の職員だけの問題とせず、会議等で全職員に注意喚起し、法人全体での接遇サービスの向上に努めた。また、封書による第三者委員宛の投書も１件あり、第三者委員へ手渡し、内容を確認した委員から、適切な対応・処理について助言を受け、対応結果を委員会に報告した。

設備・環境に関するものでは、「トイレ内の荷物置きの設置」「喫煙所の場所の移設」「外来の電話が繋がりにくい」などが寄せられ、現状で対応できる範囲での対策を講じた。また、「居室内のカビ」「洗面台の汚れ」といった指摘も受け、環境整備の向上に努めた。

その他、ご意見として「待合室の（アニメのキャラクターの）壁面装飾に雰囲気が和らぐ」「施設の年中行事を親子で楽しんでいる」「トイレがいつも清潔で快適」といった感想もお寄せいただき、非常に励みになった。

なお、従前、苦情解決委員会と同日に開催していた苦情解決（第三者）委員による苦情・要望相談について、認知度を高め、利用の促進を図るため、今年度は、入所施設の面会日に合わせ、４月にめじろ園、９月に別府整肢園で各々１回ずつ開催し、保護者懇談会の席に第三者委員も参加し、委員の紹介、制度の説明、意見交換等を行った。

①　第１回苦情解決委員会

開 催 日　　平成２９年　７月　７日（金）

報告事項　　苦情申出報告　５件　要望申出報告　１件　その他報告　１件

②　第２回苦情解決委員会

開 催 日　　平成２９年１１月２４日（金）

報告事項　　苦情申出報告　８件

③　第３回苦情解決委員会

開 催 日　　平成３０年　２月　２日（金）

報告事項　　苦情申出報告　３件　その他報告　２件

３　安全管理対策強化期間の取り組み

過去の事件・事故を風化させないために、安全管理対策強化期間（6月9日から7月4日の期間）を継続し、利用者が安全に過ごせるよう職員全員でセンター全体の安全環境整備に取り組み、安全管理に対する意識を高めることを目的に今年度も全職員の参加を基本として、安全対策強化期間研修を実施した。　医療安全管理者としては、安全管理対策強化期間の研修内容の企画・実施を行った。

（１）　実施期間

平成29年6月9日（金）から7月4日（火）

（２）　組織体制

・センター長・・・・・・総括責任者として期間中のすべての取り組みについて指揮命令し、報告を受ける。

・医療安全管理者・・・・センター長の指示のもと、具体的取り組みについて、適・宜指揮し、その結果をセンター長に報告する。
研修会の記録をし、業務の都合上参加できない職員に対して、所属長を通してDVDや資料等で伝達する。

・所属長・・・・・・・・各所属における実施責任者として、取り組みを指示し実施する。

・安全推進専門部会・・・各所属での取組みの円滑な実施のために、所属長を補佐し、協力する。

・院内感染専門部会・・・安全管理マニュアルの見直しと期間中に感染に関する研修を実施する。

（３）　実施内容

月日	時間	研修方法	研修内容	講師及び指導者	場所	参加人数（各部署DVD含む）
6月6日（火） 7月7日（金）	17：15～ 17：15～	訓示 DVD	センター長の訓示	福永センター長	ひばり園ホール	165名 98%
6月16日(金) 6月20日(火)	17：15～ 17：15~	実技講習 実技講習	「救急法」 「救急法」	別府市消防署	PT室	154名 91%

6月30日(金) 7月24日(月)	17：15~ 17：15～	講義	「障がい者の人権について」	大分県人権教育啓発推進協議会 人権問題研修講師	ひばり園ホール	146名 86%
7月3日（月） 7月12日(水)	17：15～ 17：15～	グループ討議 各部署活動報告	「発達障害のある人との関わり」 終わりの言葉	各部署代表 福永センター長	ひばり園ホール	150名 89%

4　職員研修の状況

（1）　一般研修

①　新任職員研修

対象者：平成２９年度新採用及び採用後未受講職員

・前期　　日程及び内容：４月３日　接遇研修

講　師：有限会社ファニーフェイス 代表取締役 山村 美穂子 氏

４月５日～７日（３日間）　講義形式の研修会

受講者数　２３人／２６人中

・中期　　日程及び内容：７月３日から９月２９日　各施設の現場体験実習

受講者数　２２人／２２人中

・後期　　日程及び内容：３月２日　グループ討議及び発表

受講者数　１５人／２０人中

②　中堅職員研修

対象者：２５，３０，３５，４０，４５歳の職員

受講者数　１６人／１６人中

日程及び内容：１０月１２日　・１０月２４日　施設見学研修

・施設見学：恵の聖母の家・大分こども発達支援センター

③　監督者研修

対象者：係長級の職員

受講者数　２６人／２６人中

日程及び内容：１１月１日・１１月８日　講義

講　義：「アンガーマネジメントについて」

講　師：有限会社　ファニーフェイス　　木本須賀美　氏

（2）　特別研修

①　講　義：「各部署で取り組んだ研究活動等の発表」

対象者：全職員　　参加者数　７４人

日　程：１２月１日

発表者：　リハビリテーション課　理学療法士　草苅己香

リハビリテーション課　言語聴覚士　原田早妃

整肢園　　看護課係長　山口裕子

②　講義：「資産形成セミナー（積立投資と非課税制度の活用）」

対象者：全職員　　参加者数　５３人

日　程：１月２３日及び１月２４日（大分療育センター）

講　師：野村證券株式会社　ファイナンシャル・アドバイザー課

課長代理　　石谷裕子氏

Ⅳ　主たる事業の概要

「総務課」は、「社会福祉法等の一部を改正する法律」の成立によって一新された理事会・評議員会に加え運営協議会、評議員選任解任委員会等の運営・資料の作成等に取り組み、円滑な審議の実施に努めた。

めじろ園の一般病床化に向けた届出を行い、経営基盤の安定に取り組んだ。

担当部署と連携して「開設６０周年記念事業」と「全国児童発達支援協議会中四国・九州ブロック研修会」の円滑な運営に協力した。

職員の採用については、退職者が多かった看護師の確保については順調に行えたものの、養成校の定員割れが生じている介護福祉士については、必要数を確保できないままで新年度を迎えることとなり、次年度に向けた対応が必要となっている。

また、医師、薬剤師についても、継続的な取り組みが必要な状況である。

労働契約法の改正に伴い、対象となる職員の、無期雇用への切替えに必要な諸規則等の改正を進め、遅滞なく移行できる見込みとなった。

地域への貢献の一環として開講した「つるみほっこり村」については利用児童が１０名に増え、ボランティア講師陣との交流も一層活発となった。地域交流についても鶴見町自治会の防災士に避難訓練を見ていただき助言をもらうとともに、鶴見町自治会の防災訓練に参加して、新別府病院職員とともに、車いす介助について説明・助言を行うなど交流を深めることができた。

なお、県の指導監査において平成２８年度決算に係る拠点区分貸借対照表に関して文書指導を受けたことから、迅速に詳細を確認するとともに再発防止策を立案し県に報告した。

「企画室」は、１１月２３日に別府市ビーコンプラザを会場として開催された「開設６０周年記念式典」及び「記念セミナー」の準備を担当した。当日は、別府・大分両センターの大勢のスタッフの協力を得て、成功裏に終えることができた。式典では、当センターの発展に貢献・寄与された個人・ボランティア団体・企業等への感謝状の贈呈及び永年勤続職員の表彰を行った。

年度を通して施設内保育所の立ち上げの準備を進めた。職員アンケートを実施するとともに、近隣の施設内保育所の見学を行い情報収集に努めた。９月理事会において保育所建設が正式に決定された後は、児童育成協会への企業主導型保育事業による整備費の助成申請と並行して工事入札・請負業者の決定、保育業務委託業者の選定のためのプロポーザルの実施・決定業者との打ち合わせ等を適時行って４月開設を無事達成した。

委員となる職員の業務負担の軽減を図るため、従前、毎月開催していたサービス向上・研修・広報・ボランティアの４つの委員会について、開催頻度を隔月（奇数月）に改めた。委員会を開催しない月については、委員長と企画室との事前打ち合

わせ等を行い、効率的な委員会運営を図った。また、不定期に開催していた個人情報保護委員会、虐待防止委員会については、年２回の開催を目標に、年度当初に開催月を定め、開催日も管理職会議と同日に設定するなどし、効率化を図った。

「地域療育連携室」は別府市の計画相談を延べ４３５名に実施し、昨年度に比べ１９名の増となった。大分市の計画相談は、延べ４０８名で、昨年度に比べ３３名の減となった。

別府、大分それぞれに地域の会議に出席するとともに、互いに、その情報共有を進めた。大分県重症児施設連絡会や大分県子育て連絡会、特別支援教育連絡協議会等に出席し、県内のＮＩＣＵを有する医療機関や同種施設との情報交換、連携等に取り組むとともに、訪問診療・リハビリや入所などのサービスが、必要とする児に適切に提供されるよう取り組んだ。

別府では相談者のプライバシーに配慮し、従来、受付にいた相談員の相談室常駐を進めた。療養介護事業の対象者を円滑にめじろ園等のサービスに繋げるために県内医療機関への広報に取り組んだことで問い合わせが増加し、入所に向けた調整を進めるなどの成果が表れ始めている。

別府整肢園入所児等の入退院等に際して切れ目のない支援を行うために、入院当初から入所部門の職員と連携を行った。外来療育を終了する方々の、終了後の新たな支援体制の構築のために、外来部門はもとより、教育機関や地域の相談支援事業所等との連携強化にも取り組んだ。

大分では、職員数の減少があったが、可能な限り、サービスの維持に努め利用者からの不満が発生しないよう対応した。

「診療部」は、診断書の書式を電子ファイル化する等の合理化に取り組むとともに、クラークを配置して、医師が診療に注力できるよう事務業務の負担軽減を図った。また、診断書の適切な発行手続きと、発効依頼の記録のために、従来の申請書に、ご本人が申請を行えない場合に保護者の同意を得ることとする旨の修正を加えた。

利用児への支援に加え、その保護者への子育て支援の充実を目的として、小児科医が中心となってペアレント・トレーニングの導入に向けた取り組みを進め、その第一歩として保護者向けの公開講座を２回開催して計４６名の参加を得た。

診療部に臨床工学技士を配属して、医療機器等の安全性を高めるとともに、効率的な運用にも取り組んだ。同時に医師、看護師等が担っていた医療機器等の調整や管理の負担の軽減を図った。

「リハビリテーション課」は、年間実施単位数は別府センターが６７，８８８単

位で９９０単位の減、大分センターが５２，７５０単位で３，２４０単位の減であった。別府、大分ともに、リハビリの実施に必要な定期診察及び実施計画書の発行を３か月に１度実施することを徹底するために、関係する部署と連携・調整を行うとともに、診察予約の徹底、前回の診察から３か月を超えてリハを実施しないためのマネージメントの徹底に取り組み、適切な管理が行えるようになった。

別府では、増加する外来ニーズによって、入所児・者のリハビリ頻度が減少することがないようマネージメントを行い、入所児・者のリハビリの充実について一定の改善を得ることができた。

大分では、定期診察の適切な実施が可能な利用者数の維持を徹底し、同時にリハ頻度の増加にも努めた。

対外的な活動としては、大分大学小児科の「心のネットワーク推進事業」への協力や保健師や幼稚園教諭・保育士等を対象に発達障がいに関する講義を行った。在宅障がい児のための地域資源の充実に向けて、看護協会主催の研修会で重症児の訪問リハビリに関する講義を行った。また、専門家チームの一員として、教育委員会・学校等において助言を行う等の取り組みも継続した。

職員の育成については、外部講師を迎えて全職員を対象とする研修を企画・実施するとともに、症例検討を定期的に開催し、臨床での課題解決能力の育成・向上に取り組んだ。

「別府整肢園」は、１日平均４１．２名の利用があった。行動特性に配慮が必要な利用者を多く受け入れたが、安全な入所療育を提供するために、カンファレンス等で職員の共通理解を深めるとともに、職員全体で一貫性のある支援が提供できるよう取り組み、事故等の発生を未然に防ぎ、充実した支援を提供することができた。

一方で、県の指導監査において、利用者の居室のやむを得ない施錠時、記録を残していなかったこと等についての文書指導を受けた。迅速に、利用者の状態や支援の在り方を見直して、可能な限り施錠を減らすとともに、記録を徹底した。また、改めて研修を実施し、虐待防止・人権意識について職員間で共通認識を醸成し、今後の法人としての取り組みも含めて県に報告した。

感染症対策については、流行期の１月にインフルエンザの集団感染が発生したが、感染者の隔離や病棟閉鎖、職員の感染予防対策の徹底を行い、早期に拡大を抑えて、重篤者を出すことなく終息させることができた。

療育活動の充実を図り、情緒面・行動面に課題を持つ利用者に落ち着きや安心を提供するためにスヌーズレン室の活用を開始した。措置等での利用者の外出の機会や経験を増やすとともに、親子入所の利用者については退園後に利用する施設との連携を強化して継続的なサービスの提供に取り組んだ。また、学齢児については、行事等に職員を派遣するなど支援学校等との連携を強化して安全・安心な教育環境

の実現を支援した。

昨年度に引き続き、岡山市で開催される西日本ティーボール大会に参加して、他施設の利用者との交流や社会経験を深めるとともに、「開設６０周年記念事業」の中で、入所者自身によりその体験を発表するなど、広がりのある経験をすることができた。

地域療育連携室や外来と連携し、スムーズな入退園、在宅への移行を支援するとともに、ショートステイを延べ４９９名受け入れ、地域の利用者の生活支援の充実に取り組んだ。

「めじろ園」は、新たな利用者１名をお迎えし、１日平均５７．３名の利用があった。ショートステイも延べ５４３名を受け入れた。ご家族又は成年後見人の方々全員と個別面談を実施し、日頃の生活や医療ケアの様子をお伝えするとともに要望やご意見などを伺い、その情報を施設内で共有して、ご家族の思いを反映したサービスが提供できるよう取り組んだ。

必要に応じて看取りについてもご意思を伺っていたが、今年度、残念ながらお亡くなりになられた２名の方については、ご家族のご意思を尊重した看取りをさせていただくことができた。

施設の外に出る機会が少ない人工呼吸器の装着などの医療ケアの必要性が高い利用者についても、病棟職員の連携に加え、リハ課職員などの協力も得て、外出などを含めた日中活動の充実に取り組んだ。

センターや施設の行事への参加についても、医師の指示のもとで、鶴見校体育館での運動会や、夏祭り、秋祭り、毎月の誕生会などへの全員参加を目標に、短い時間でも行事の楽しさを経験してもらえるよう取り組んだ。

２月から一般病床へ切り替えたことに伴い、伝票等のチェック等、新たな業務に取り組み、診療報酬請求が円滑に行えるよう取り組んだ。

「ひばり園」は、１日平均利用者１６．５名で、昨年に比べ０．９名増加した。延べ利用者４，１７９名で昨年度に比べ２１４名の利用増がみられた。保育所等訪問支援のニーズに対応するために、勤務シフトを時間単位で作成し、地域支援や外来保育も含めて、効率的なマンパワーの投入に向けた取り組みを行い一定の成果を得た。

こじか園とともに、１１月１０日に開催した「全国児童発達支援協議会中四国・九州ブロック研修会」の準備に中心的に関わるとともに、県ＣＤＳの会員１６施設から延べ５６名のスタッフ派遣の協力も得て、中四国・九州各地から１０２施設２３１名の参加者を迎え、成功裏に会を開催することができた。

職員については、保育士プラスアルファの資格取得を共通目標として、資格取得に

向けた取り組みを行った。ペアレント・トレーニング養成講座に職員２名が参加した。また、大分県発達障害者支援専門員（中級）を取得するとともに、日本自閉症スペクトラム支援士（アドバンスもしくはエキスパート）の資格取得を目指して取り組みを継続するなど、保育士一人ひとりが専門性の向上に努めた。

「地域支援センターほっと」は、年間を通して複数事業で利用者を増やして、サービスの安定的な提供を行うことができた。生活介護は延べ４，７７１名の利用で延べ２２１名の増であった。放課後等デイサービスは１．９４８名で３７名の減であった。

事故発生時の緊急対応シミュレーションを年間２回実施した。うち１回は、地域支援センター内部にとどまらず、センターの診療部・看護部等と連携して、医療スタッフが少ない福祉部門への助言や新たな課題の発見につなげることができた。

記録の重要性や記録方法についての伝達講習を、全職員を対象に実施するとともに、支援時の利用者の様子についての記録の充実を目標として取り組んだ。その結果、蓄積された記録を個別支援計画等の評価時に活用することができるようになり、支援の質を高めることができた。

職員が積極的に外部研修に参加し、伝達研修の機会を増やすとともに、事例検討も実施することができ、職員個々の支援スキルの向上に向けた意識を高めることができた。また、伝達研修の励行により、資料作成やプレゼンテーション技術のスキルアップに結び付けることもできた。

「大分療育クリニック」は、延べ７，３８６名の利用があった。関係部署が協力し予約管理を徹底することで３か月に１度の頻度でカンファレンスと定期診察を実施できた。カンファレンスを通じて多職種間の連携が強化された。リハビリテーション総合実施計画書を作成し、利用者に提供する取り組みをきっかけとして、利用者への丁寧な説明とインフォームドコンセントの形成が図られた。

リハのコマ数を見直すことで、１日に実施できる最大単位は２１単位から１９単位に減少したが、ゆとりを持った対応が可能となりサービス向上に繋がった。

事務部門では、カルテの持ち運び方法、歯科事務の外来受付とのローテーション化等の業務改善に努めた。カルテの整理に努め、利用者を迎える準備がスムーズに行えるよう配慮した。次年度の職員増員に向けて、診療スペース等の用途変更を行い、事前準備に努めた。なお、当年度に予定していた大分療育センター全体の大規模修繕については、諸般の事情で次年度に繰り越すこととした。

「障がい者歯科」は、別府センターに６６５名の利用があり、昨年度に比べ２４名の減、大分センターは２，５７４名の利用があり３１６名の減であった。

スタッフの減少で、一時的に別府での開所日を減らすなど利用者へのサービスの提供を縮小せざるを得ない状況だったが、可能な限り利用者の障害・疾病の特性の把握に努め、良質で、安全・安心な診療の提供に努め、無事故で２９年度を終えることができた。

発達障がいやその他の障害についての最新の知見や歯科医療技術を得るために積極的に学会等に参加するとともに、参加者の伝達研修を徹底し、すべての職員のレベルアップに努めた。

県歯科医師会による障がい児・者専門の歯科医療機関が開設されることとなり、今後、１次及び３次医療機関との連携強化と県内の障がい者歯科医療ネットワークの構築が益々必要となる。その一端として、会議等に出席して必要な意見を述べるとともに、当センターの体制についても検討を開始した。

「こじか園」１日平均１３．９名の利用で、昨年度に比べ０．８名の減であった。知的な遅れのない園児が多く利用しており、当該園児に対して社会性などを身につけるための支援の在り方が課題となっていた。今年度は、２つのグループの計１０名の園児を対象として、ＳＳＰ（ソーシャルスキルプレイ）を導入して、集団の場で気持ちを上手に周りに伝えることや、ルールを守ることを中心として活動を行い、その基礎を身に着ける支援ができて、保護者からも好評を得ることができた。

親子通園の意義をさらに強化するために、保護者を対象としてペアレント・トレーニングを実施した。年長児の保護者１７名に１０回のセッションで実施し、参加者からは、「上手に褒められるようになった」「困りごとへの対応の仕方を丁寧に教えてもらえた」と好評であった。希望者に行っている発達段階のチェックや目標の再確認、保育所・幼稚園などへの利用移行などの個別相談の希望者も昨年に比べ３４件増加するなど、保護者支援の充実を図ることができた。

各種研修会への積極的な参加を促し、参加者については伝達研修を徹底するとともに、接遇や虐待防止、ＳＳＴや感覚統合、タッチケア等の研修を内部で２０回実施した。特に、幼児体育については保護者も交えながら、利用者に提供する形で研修を進めることができ好評を得た。

「りんく」は、放課後等デイサービス事業が土曜日と長期休暇期間だけの開業であることから、利用者の確保、職員の配置等の課題があったため、今年度は当該事業を休止とした。ご利用者については、他の事業所への紹介を徹底するなどの取り組みでご不便を最小に抑えるよう努めた。

生活介護事業の利用者確保については、利用者及び利用日の増加に取り組むことで、１日平均９．６名の利用があり、昨年度の生活介護事業と放課後等デイサービス事業の合計と同じ利用者数を確保できた。将来の利用者確保に向けて新生支援学

校から６名、大分支援学校から２名の実習生を受け入れた。

２回の個別面談を実施して様々な情報の把握に努めるとともに、利用者やご家族の要望を積極的に個別支援計画に反映させてサービスの質の向上に取り組んだ。

サービス担当者会議で他の事業所との情報共有を図ったことや、年度末にアンケート調査を実施し情報の把握に努めたことで、事業所内の支援から、さらに一歩踏み込んで自宅訪問をして課題解決に取り組むなどの新たな試みも実施できた。連絡帳の充実に加え、活動の様子を写真や動画に収め、保護者に見ていただくなどの取り組みも実施した。

なお、送迎車両が老朽化していたことから、公益財団法人日本財団に福祉車両の申請を行った結果、採択されて３月に納車を受け、快適な送迎が実施できるようになった。

Ⅴ　補助事業の状況

(1)　施設整備

①　事　業　名　　平成 29 年度企業主導型保育事業（整備費）

②　工　事　名　　（社福）別府発達医療センター施設内保育所建設工事

③　事　業　費　　総事業費　　４１，２０５，２４０円（消費税込）

（内訳）　建設工事費　　38,394,000 円

追加工事費　　651,240 円

設計監理料　　2,160,000 円

補助金額　　２７，４９３，０００円

自己負担額　　１３，７１２，２４０円

④　完了年月日　　平成３０年３月２０日

(2)　車両整備

①　事　業　名　　公益財団法人 日本財団 2017 年度車いす（車いす４名）対応車の整備

②　車　　種　　日産キャラバン（車いす４名）　１台

③　受領施設　　大分療育センター　りんく

④　事　業　費　　総事業費　３，０６６，５００円

（内訳）　補助金額　２，４５０，０００円

自己負担額　　６１６，５００円

⑤　完了年月日　平成３０年３月２９日

Ⅲ　個別事業の実績

【別府センター】

1　診療部門

(1)外来診療

年度	25	26	27	28	29	対前年比
診療日数（日）	270	272	271	269	280	11
新患（人）	660	870	814	619	582	△ 37
再来（人）	15,225	14,312	14,522	14,596	13,953	△ 643
合計（人）	15,885	15,182	15,336	15,215	14,535	△ 680
1日平均（人）	58.8	55.8	56.6	56.6	51.9	△ 4.7

(2)小児科(再掲)

年度	25	26	27	28	29	対前年比
新患（人）	82	114	140	124	143	19
再来（人）	1,313	1,333	1,586	1,899	1,967	68
合計（人）	1,395	1,447	1,726	2,023	2,110	87
1日平均（人）	5.2	5.3	6.4	7.5	7.5	0.0

(3)耳鼻科(再掲)

年度	25	26	27	28	29	対前年比
診療日数（日）	45	46	50	47	47	0
新患（人）	34	36	43	34	28	△ 6
再来（人）	272	246	308	319	274	△ 45
合計（人）	306	282	351	353	302	△ 51
1日平均（人）	6.8	6.1	7.0	7.5	6.4	△ 1.1

(4)側弯検診(再掲)

年度	25	26	27	28	29	対前年比
新患（人）	113	189	204	44	39	△ 5.0
再来（人）	207	237	218	230	190	△ 40.0
合計（人）	320	426	422	274	229	△ 45.0
1日平均（人）	16.8	15.8	22.2	11.4	9.5	△ 1.9

(5)歯科

年度	25	26	27	28	29	対前年比
診療日数（日）	94	94	90	69	82	13
新患（人）	169	109	50	71	154	83
再来（人）	1,108	1,205	1,013	618	511	△ 107
合計（人）	1,277	1,314	1,063	689	665	△ 24
1日平均（人）	13.6	14.0	11.8	10.0	8.1	△ 1.9
鎮静法下治療延数	23	28	12	14	14	0

(6)手術等の件数　　(単位:例)

年度	25	26	27	28	29	対前年度
骨長調整術	0	12	6	2	3	1
骨切り術	9	2	5	2	0	△ 2
骨盤骨切り術	0	2	2	0	1	1
骨内異物除去術	9	12	21	15	6	△ 9
腱延長術	5	4	5	5	2	△ 3
腱移行術	0	0	0	1	2	1
内反足術	1	1	2	5	5	0
股関節内転筋切離術	1	0	2	1	0	△ 1
股関節筋群解離術	5	0	2	4	1	△ 3
関節脱臼非観血的整復術	3	2	3	1	1	0
観血的関節授動術	10	11	8	0	0	0
その他	21	35	16	21	13	△ 8
合計	64	81	72	57	34	△ 23
ボツリヌス毒素使用	232	250	240	200	174	△ 26
全身麻酔下の歯科処置	29	28	33	27	26	△ 1

(7)リハビリテーション

年度		25	26	27	28	29	対前年度
延べ人数	(人)	34,031	34,675	32,463	33,732	33,271	△ 461
理学療法	(単位)	26,285	30,523	25,874	26,728	25,900	△ 828
作業療法	(単位)	26,960	25,295	24,127	25,963	22,639	△ 3,324
言語聴覚療法	(単位)	16,681	16,236	16,370	16,187	19,349	3,162

(8)調剤数　　(単位:件)

年度	25	26	27	28	29	対前年度
入院	13,425	13,546	10,865	12,481	13,074	593
外来	219	226	687	247	143	△ 104
合計	13,644	13,772	11,552	12,728	13,217	489

(9)検査件数(院内実施分)

年度	25	26	27	28	29	対前年度
脳波検査	137	142	123	119	60	△ 59
心電図	158	155	157	130	136	6
ABR他	21	14	29	24	25	1
血液検査	610	638	823	603	463	△ 140
尿検査他	396	409	406	325	309	△ 16
生化学	261	211	189	92	35	△ 57
血液ガス	110	74	135	62	65	3
合計	1,693	1,643	1,862	1,355	1,093	△ 262

(10)X線撮影

年度	25	26	27	28	29	対前年度
単純撮影	2,027	2,192	2,109	1,945	1,705	△ 240

2　入園部門

(1)別府整肢園　　(定員60人)

①入所者数

単位:人

年度	25	26	27	28	29	対前年度
前年度から継続	39	41	48	37	38	1
入園	161	169	186	167	140	△ 27
退園	158	162	197	166	138	△ 28
延在籍人員	15,364	14,989	14,686	15,303	15,047	△ 256
一日平均在籍	42.1	41.1	40.2	41.9	41.2	△ 0.7

②就学状況

単位:人

年度	25	26	27	28	29	対前年度
小学部	23	19	11	14	21	7
中学部	4	8	9	9	8	△ 1
高等部	3	6	6	4	11	7
合計	30	33	26	27	40	13

③短期入所等(空床利用)

単位:人

年度	25	26	27	28	29	対前年度
延べ件数　(件)	91	94	124	119	180	61
延べ日数　(日)	338	321	350	346	472	126
日中一時支援　(日)	26	34	5	6	30	24

(2)めじろ園　　(定員60人)

①入所者数

単位:人

年度	25	26	27	28	29	対前年度
前年度から継続	57	59	56	58	57	△ 1
入園	10	6	4	5	2	△ 3
退園	13	8	2	6	3	△ 3
延在籍人員	20,736	20,932	21,128	20,999	20,936	△ 63
一日平均在籍	57	57.3	57.7	57.5	57.0	△ 0.5

②就学状況

単位:人

年度	25	26	27	28	29	対前年度
小学部	1	2	2	2	1	△ 1
中学部	0	0	0	0	0	0
高等部	5	4	2	0	2	2
合計	6	6	4	2	3	1

③短期入所等(併設4床)

単位:人

年度	25	26	27	28	29	対前年度
延べ日数　(日)	342	614	354	464	534	70
日中一時支援　(日)	28	32	34	16	1	△ 15

3 通園部門

ひばり園　（定員30人）　（単位：人）

年度	25	26	27	28	29	対前年度
継続児数	43	35	34	28	38	10
入園児数	22	19	15	29	18	△ 11
退園児数	31	21	22	19	5	△ 14
年間利用者数	65	54	49	57	56	△ 1
延利用者数	4,659	4,681	4,463	3,965	4,179	214
一日平均	18.1	18.3	17.3	15.6	16,5	0,9

4 地域支援センターほっと

年度		25	26	27	28	29	対前年度	単位
生活介護	登録者数	48	47	47	48	48	0	人
	延利用者数	4,705	4,730	4,688	4,550	4,771	221	人
	一日平均	19.4	19.4	19.4	18.6	19.4	1	人
放課後等デイサービス	登録者数	26	20	21	23	20	△ 3	人
	延利用者数	1,839	1,763	1,984	1,898	1,848	△ 50	人
	一日平均	6.5	6.1	6.8	7.1	7.2	0.1	人
居宅介護	登録者数	19	18	17	17	26	9	人
	延利用時間数	1,730	1,474	1,662	1,496	1,957	461	時間
行動援護	登録者数	19	22	14	18	16	△ 2	人
	延利用時間数	4,976	4,538	4,242	3,735	2,977	△ 758	時間
日中一時支援（ｼｮｰﾄｽﾃｲ）	登録者数	9	9	8	9	9	0	人
	延利用者数	270	276	278	272	266	△ 6	人
個別移動支援	登録者数	16	17	14	16	20	4	人
	延利用時間数	1,234.5	1,249.5	1,103.0	1,149.0	1,208.0	59	時間
送迎移動支援	登録者数	2	1	1	1	0	△ 1	人
	延利用者数	35	22	20	12	0	△ 12	人
ほっとｻｰﾋﾞｽ	登録者数	5	5	5	5	5	0	人
	延利用者数	1,202	1,241	367	205	251	46	人

5 地域療育関連主要事業　（単位：件）

年度			25	26	27	28	29	対前年度
大分県分	訪問療育等	巡回相談	252	268	223	240	215	△ 25
		訪問援助	111	105	100	108	122	14
		計	363	373	323	348	337	△ 11
	外来療育等	保育	1,369	1,273	1,300	1,487	1,517	30
		SW等	210	273	151	170	54	△ 116
		その他	47	43	46	20	182	162
		計	1,626	1,589	1,495	1,677	1,753	76
	施設支援一般指導		107	100	79	86	74	△ 12
	施設支援専門指導		2	2	2	2	2	0
別府市委託相談事業			1,769	2,341	1,861	2,601	2,662	61
計画相談	障害児計画相談支援		67	143	130	155	205	50
	①サービス利用支援		47	98	102	123	119	△ 4
	②継続利用支援		20	45	28	32	86	54
	障害者計画相談		153	244	237	255	233	△ 22
	①サービス利用支援		107	163	134	143	161	18
	②継続利用支援		46	81	103	123	72	△ 51

【大分センター】

6 外来診療部門

(1)リハビリテーション科

年度	25	26	27	28	29	対前年比
診療日数（日）	249	249	249	247	247	0.0
新患（人）	65	105	125	124	62	△ 62.0
再来（人）	15,681	15,329	15,350	15,173	14,605	△ 568.0
合計（人）	15,746	15,434	15,475	15,297	14,667	△ 630.0
1日平均（人）	68.3	62.0	62.1	62.9	59.4	△ 3.5

(2)精神科

年度	25	26	27	28	29	対前年比
診療日数（日）	248	236	249	247	247	0.0
新患（人）	279	149	187	174	227	53.0
再来（人）	2,598	2,026	1,969	2,195	2,486	291.0
合計（人）	2,877	2,175	2,156	2,369	2,713	344.0
1日平均（人）	11.6	9.2	8.7	10.6	11.0	0.4

(3)小児科

年度	25	26	27	28	29	対前年比
診療日数（日）	18	55	11	5	0	△ 5
新患（人）	14	28	1	0	0	0
再来（人）	62	84	37	19	0	△ 19
合計（人）	76	112	38	19	0	△ 19
1日平均（人）	4.2	2.0	3.5	3.8	0.0	△ 3.8

(4)歯科

年度	25	26	27	28	29	対前年比
診療日数（日）	188	191	189	182	186	4
新患（人）	776	430	214	194	664	470
再来（人）	2,556	2,929	3,296	2,696	1,910	△ 786
合計（人）	3,332	3,359	3,510	2,890	2,760	△ 130
1日平均（人）	17.7	17.6	18.6	15.9	14.8	△ 1.1
鎮静法下治療延数	233	265	334	265	223	△ 42

(5)リハビリテーション

年度	25	26	27	28	29	対前年比
理学療法（単位）	16,233	16,563	17,165	17,204	15,724	△ 1,480
作業療法（単位）	23,855	23,486	23,839	23,072	21,674	△ 1,398
言語聴覚療法（単位）	16,972	15,043	14,845	15,714	15,352	△ 362

7 通園部門

(1)こじか園　　(定員20人)　　(単位:人)

年度	25	26	27	28	29	対前年度
継続児数	39	18	34	38	39	1
入園児数	18	21	26	19	16	△ 3
退園児数	21	23	22	18	28	10
登録者数	36	50	60	54	49	△ 5
延利用者数	2,915	2,791	3,421	3,569	3,386	△ 183
一日平均	11.8	11.2	13.9	14.7	13.9	△ 0.8

*平成24年度からは福祉型児童発達支援センターへ移行

(2)りんく　　(定員18人)　　(単位:人)

年度		25	26	27	28	29	対前年度
生活介護	登録者数	19	18	19	20	20	0
	延利用者数	2,472	1,990	2,052	2,263	2,359	96
	一日平均	9.9	8.0	8.2	9.2	9.6	0.4
放課後デイサービス	登録者数	4	6	9	11	11	0
	延利用者数	203	165	151	115	15	△ 100
	一日平均	2.1	2.4	2.1	1.6	1	△ 0.6

平成29年6月30日付で放課後デイサービスは休止。

8 地域療育関連主要事業　　(単位:件)

年度			25	26	27	28	29	対前年度
大分市分	訪問療育等	巡回相談	167	115	112	104	137	33
		訪問援助	774	772	618	575	503	△ 72
		計	941	887	730	679	640	△ 39
	外来療育等	保育	1,639	1,421	1,417	1,431	1,328	△ 103
		SW等	127	66	12	64	19	△ 45
		その他	559	575	301	176	268	92
		計	2,325	2,062	1,730	1,671	1,615	△ 56
	施設支援一般指導		38	28	38	28	35	7
佐伯市メディカルサポート			3	0	3	3	2	△ 1
発達障害児巡回専門員派遣事業				14	2	6	14	8
計画相談	障害児計画相談支援		163	291	407	433	403	△ 30
	①サービス利用支援		111	166	207	206	197	△ 9
	②継続利用支援		52	125	200	227	206	△ 21
	障害者計画相談		2	1	6	8	4	△ 4
	①サービス利用支援		2	1	3	5	2	△ 3
	②継続利用支援		0	0	3	3	2	△ 1

9 ソーシャルスキルトレーニング　　(単位:人)

年度		24	25	26	27	28	対前年度
延利用者数	前期	248	176	269	132	23	△ 109
	後期	240	128				
合計		488	304				